

2022年10月25日
公益財団法人イオン環境財団

第7回「イオン生物多様性みどり賞（国内賞）」優秀賞決定 12月11日（日）授賞式・受賞者フォーラムを開催

公益財団法人イオン環境財団（理事長 岡田元也 イオン株式会社 取締役 代表執行役会長、以下当財団）は、第7回「イオン生物多様性みどり賞（国内賞）」の優秀賞5団体を決定しました。

第7回「イオン生物多様性みどり賞（国内賞）」優秀賞

（五十音順）

受賞団体名	プロジェクト名
O2Farm	世界が認めた日本の田舎・南阿蘇のランドスケープを次世代に！ 「ランドスケープ農業」の実践と提唱
尻別川の未来を考える オビラメの会	絶滅危惧種イトウ尻別川 個体群の復元プロジェクト
特定非営利活動法人 ^{とうめ} 当目	能登半島における源流水による 棚田経営・管理と動植物の多様性保全
豊田鉄工株式会社	トヨタの森を活用した生物多様性啓発活動
長野県上伊那農業高等学校 コミュニティデザイン科グローバルコース	伊那谷の「ざざ虫」を未来へ ～持続可能な河川生態系の保全と利用を目指して～

「イオン生物多様性みどり賞（以下、みどり賞）」は、生物多様性の保全と持続可能な利用の推進、生物多様性の普及・啓発・共有において、顕著な功績が認められる個人・団体を顕彰する賞です。当財団は、国連生物多様性条約事務局（SCBD）とのパートナーシップ協定のもと、みどり賞（国内賞）を2009年、みどり賞（国際賞）を2010年に創設し、隔年で継続実施してきました。

第7回みどり賞（国内賞）は、12月11日（日）に上智大学で授賞式・受賞者フォーラムを開催して優秀賞を表彰し、なかでも特に傑出したプロジェクト1件を、当日、グランプリとして発表いたします。フォーラムでは、各受賞団体による活動内容のプレゼンテーションも行います。

当財団は、本顕彰を通じて生物多様性の重要性を社会に発信し、いのちあふれる美しい地球を次代に引き継ぐため、今後も多様な環境活動に取り組んでまいります。

【第7回「イオン生物多様性みどり賞（国内賞）」概要】

主催：公益財団法人イオン環境財団

後援：環境省

応募資格：国内の学校・団体・企業・個人

対象活動：生物多様性の保全、生物多様性の持続可能な利活用、生物多様性の普及・啓発・共有

顕彰内容：グランプリ 1件 副賞300万円

優秀賞 4件 副賞100万円

授賞式・受賞者フォーラム：〈日時〉12月11日（日）14：00～16：30（受付開始13：00）

〈場所〉上智大学 四谷キャンパス（東京都千代田区紀尾井町7-1）

※その他詳細、ご出席のお申し込みは、当財団のホームページをご参照ください。

（授賞式・受賞者フォーラム参加申込締め切り：2022年12月5日（月））

<https://www.aeon.info/ef/prize/award/ceremony.html>

スマートフォンからのお申込みはこちら→



<受賞プロジェクト講評>

(五十音順)

プロジェクト名	世界が認めた日本の田舎・南阿蘇のランドスケープを次世代に！ 「ランドスケープ農業」の実践と提唱		
受賞団体名	O 2 F a r m	所在地	熊本県
「ランドスケープ農業」という新しい概念を提唱。生物多様性のみならず、景観、文化・ライフスタイルにいたるまで統合的な保全を目指している。環境文化保全型の農業へと転換するきっかけにもなる取り組みであると同時に、多くの若者が進んで移住している点は、今後の日本の「地域循環共生圏」づくりの体現モデルにもなる。			
プロジェクト名	絶滅危惧種イトウ尻別川 個体群の復元プロジェクト		
受賞団体名	尻別川の未来を考えるオビラメの会	所在地	北海道
絶滅が心配されるイトウ（サケ科）の個体群を元どおりの健康な状態に戻そうという事業。国際自然保護連合の指針に従い、稚魚の人工放流と産卵地再生工事を組み合わせ、科学的な追跡調査で効果を確かめながら、イトウが自力で世代交代できる川の復元を目指している。地元各機関と協働で、脆弱な淡水域生態系の復元に挑戦し、成果を上げている。			
プロジェクト名	能登半島における源流水による棚田経営・管理と動植物の多様性保全		
受賞団体名	特定非営利活動法人当目	所在地	石川県
過疎による将来の消失が懸念される日本の集落において、その生態的文化的価値の重要性を掘り起こし、多様な種の組み合わせによる日本の原風景を維持することの意義を伝えている。特定の種に頼らず、複数の種の共存を動的にとらえている点にも持続性や将来の可能性が見い出せ、評価できる。他地域、世界のモデルケースにもなり得る。			
プロジェクト名	トヨタの森を活用した生物多様性啓発活動		
受賞団体名	豊田鉄工株式会社	所在地	愛知県
TNFD（自然関連財務情報開示タスクフォース）も始まろうとしており、民間企業が生物多様性への認識を高めることが非常に重要。そのような中で本取り組みは、民間企業が地域の環境を考えつつ、一定の森林を運営し、生物多様性の意識向上につなげた好例であり、社内外への波及効果も高く、一定の効果が現れている点で評価できる。			
プロジェクト名	伊那谷の「ざざ虫」を未来へ ～持続可能な河川生態系の保全と利用を目指して～		
受賞団体名	長野県上伊那農業高等学校 コミュニティデザイン科グローバルコース	所在地	長野県
江戸時代から伝統的文化の一つとして継承されてきた昆虫食であり、生態系にも関わる「ざざ虫」を未来へ残すためのユニークな活動。産学官が連携し、新たな生物多様性の保全と利用を目指して活動している。昆虫食は世界的にも注目されており、今後も「ざざ虫」の新しい商品開発など継続した取り組みが期待される。			

<審査委員>

(五十音順)

座長	岩槻 邦男	公益財団法人イオン環境財団 理事 東京大学 名誉教授 兵庫県立人と自然の博物館 名誉館長
委員	あん まくどなるど	上智大学大学院 地球環境学研究科 教授
委員	香坂 玲	東京大学大学院 農学生命科学研究科 森林科学専攻 教授
委員	末吉 竹二郎	公益財団法人イオン環境財団 評議員 国連環境計画・金融イニシアチブ 特別顧問 WWF ジャパン 会長
委員	南川 秀樹	公益財団法人イオン環境財団 理事 一般社団法人日本環境衛生センター 理事長 元環境省 事務次官
委員	山極 壽一	大学共同利用機関法人総合地球環境学研究所 所長 前京都大学 総長

ご参考

■歴代グランプリ受賞団体の取り組み

第1回（2009年）「地域企業との協働による谷津田の保全」

NPO法人アサザ基金／白菊酒造株式会社／株式会社田中酒造店

茨城県にある湖沼「霞ヶ浦」の水質悪化により絶滅に瀕していた浮葉性植物である「アサザ」を再生するため、1995年より流域の学校、住民、農林水産業、企業、行政等が連携して実施する市民型公共事業「アサザプロジェクト」を開始しました。湖各地での自然再生や里山の保全、外来魚駆除事業、バイオマス事業などで持続可能な循環型社会の構築に取り組み、100年後にトキの舞う湖をめざしています。



第2回（2011年）「湿地環境の指標種としての雁類の保護および

その生息環境の保全・復元と人間との共生を目指す活動」

日本雁を保護する会

雁類の渡り経路を国際調査で解明し、国内生息地での調査結果をまとめ、保全・啓発・提言活動を実施しています。近年はその生息地である水田に注目し、雁類の生息地復元と水田の生物多様性を活かし、農業との共生をめざす「ふゆみずたんぼ」の提唱・普及に取り組んでいます。水田の湿地機能への関心を高める「みぶくりぬま蕪栗沼・周辺水田」のラムサール条約湿地登録、ラムサールCOP10およびCBD・COP10での「水田の生物多様性に関わる決議」実現に貢献しました。



第3回（2013年）「津波に被災した田んぼの生態系復元力による復興」

NPO法人田んぼ

宮城県気仙沼をはじめ、塩竈、南三陸、岩手県陸前高田を中心に生態系の復元力を活用した自然農法のシステム（ふゆみずたんぼ）で津波被災地の田んぼの復興を実現しました。1,200名を超える多様なボランティアの参加により、手作業で田んぼの復興を試み、抑塩にも成功しています。また各地で、生物多様性、水質、土壌内の微生物の、活性度調査などの科学的なモニタリング実施により現況を把握し、その結果、被災した年の秋から豊かな収穫を享受することができました。



第4回（2015年）「エゾシカの先進的な資源的活用促進事業」

一般社団法人エゾシカ協会

北海道でのエゾシカの適正な個体数管理が強く求められる中、シカ肉を適正に利用し、森林保全に還元する仕組みを作るため、2007年に厳しい衛生基準を満たす解体処理場の製品の認証制度を創設しました。2012年からは認証処理場で処理された肉の加工食品の認証制度をスタート。2015年からは肉の検査者となるシカ捕獲者の認証制度創設にも取り組んでいます。安心安全なシカ肉の流通により、森とエゾシカと人との適正な関係を築き、シカ肉の資源的価値の向上に貢献しました。



第5回（2017年）「高知県最南端柏島・島が丸ごと博物館（ミュージアム）」持続可能な里海づくり

NPO法人 黒潮実感センター

温帯域にありながら熱帯・亜熱帯域を凌ぐほどの生物多様性の宝庫である高知県柏島。その豊かな自然と、そこに住む人の暮らしとを「島がまるごと博物館（ミュージアム）」と捉え、海と人々が育みあう持続可能な里海モデルの創出を目指す活動に取り組んでいます。多様なステークホルダーが漁業や観光の視点から生物多様性に取り組み、保全と利活用の両立を実現しています。



第6回（2019年）ヨシでびわ湖を守るリエデンプロジェクト

株式会社コクヨ工業滋賀

琵琶湖のヨシ刈りや外来魚駆除などの活動を通じて地域の自然に関わり、その生物多様性の資源保護のために地域と連携した取り組みを行っています。更に、刈り取ったヨシの新たな活用を実現したエコ文具「リエデンシリーズ」を開発し、ビジネスで活かすという企業のCSV事業モデルとなる取り組みです。



■歴代受賞プロジェクト一覧

回／年度		団体名	受賞プロジェクト名	活動地域	団体所在地
第1回 2009年	グランプリ	NPO法人アサザ基金／白菊酒造株式会社 ／株式会社 田中酒造店	利用フィールド部門：地域企業との協働による谷津田の保全	茨城県	茨城県他
	優秀賞	財団法人 知床財団	保全フィールド部門：知床の生物多様性に関する取組	北海道	北海道
		NPO法人 農と自然の研究所	保全リサーチ部門：「農」に着目した地域における生物多様性の保全のための活動	福岡県	福岡県
		鹿島建設株式会社	利用リサーチ部門： エコロジカルネットワークの研究と実践	首都圏 全国	東京都
		コウノトリ育むお米生産部会／JAたじま／NPO コウノトリ湿地ネット／豊岡市／兵庫県豊岡 農業改良普及センター	保全プロダクト部門：「コウノトリ育む 農法」とコウノトリ共生米	兵庫県	兵庫県
		積水ハウス株式会社	利用プロダクト部門：生物多様性保全を 含む10の調達指針	全国	東京都
		中日信用金庫	保全コミュニケーション部門：「生物多様 性について考えてみませんか」定期の取り 扱い	愛知県	愛知県
		サラヤ株式会社	利用コミュニケーション部門：「ボルネオ はあなたが守る！」キャンペーン	マレーシア 全国	大阪府
第2回 2011年	グランプリ	日本雁を保護する会	湿地環境の指標種としてのガン類の保護お よびその生息環境の保全・復元と人間との 共生をめざす活動	宮城県	宮城県
	優秀賞	有限会社 熊谷産業	茅場の保全から茅葺屋根まで－ヨシ原と共 に生きる－	宮城県	宮城県
		NPO法人 ピッキオ	クマ保護管理事業	長野県	長野県
		NPO法人 多摩源流こすげ	山梨県小菅村における多摩川源流大学を 中心とした源流域の自然保全活動と教育 活動	山梨県	山梨県
		株式会社 野田自然共生ファーム	野田自然共生ファーム	千葉県	千葉県
第3回 2013年	グランプリ	特定非営利活動法人 田んぼ	津波に被災した田んぼの生態系復元力に よる復興	宮城県 岩手県	宮城県
	優秀賞	味の素株式会社	太平洋沿岸カツオ標識放流共同調査と一連 の協働・普及啓発活動	西日本太平 洋沿岸地域	東京都
		中越パルプ工業株式会社	「竹紙（たけがみ）」の取り組み	九州等	東京都 富山県
		てるはの森の会	綾の照葉樹林プロジェクト	宮崎県	宮崎県
		ネイチャー・テクノロジー研究会 （東北大学大学院環境科学研究科）	ネイチャー・テクノロジー創出のシステム 構築	全国	宮城県

第4回 2015年	グランプリ	一般社団法人エゾシカ協会	エゾシカの先進的な資源的活用促進事業	北海道	北海道
	優秀賞	株式会社伊藤園	「お茶で琵琶湖を美しく・お茶で日本を美しく」プロジェクトを通じた生物多様性保全の取り組み	滋賀県 全国	東京都
		九州の川の応援団／九州大学島谷研究室	水辺環境の保全・再生の実践と地域活性化	福岡県 韓国等	福岡県
		NPO法人グラウンドワーク三島	市民力を結集してドブ川を多様な生き物がすむ「ふるさとの川」に再生・復活	静岡県	静岡県
		気仙沼市立大谷中学校	大谷ハチドリ計画 (Ohya Hummingbird Project)	宮城県	宮城県
第5回 2017年	グランプリ	NPO法人 黒潮実感センター	「高知県西南端柏島・島が丸ごと博物館(ミュージアム)」持続可能な里海づくり	高知県	高知県
	優秀賞	宮城県漁業協同組合	国際養殖認証の取得を通じた持続可能で高品質なマガキの養殖生産	宮城県	宮城県
		一般社団法人企業と生物多様性イニシアティブ (JBI B)	企業における生物多様性主流化のためのツールやガイドラインの開発	東京都	東京都
		トンボはドコまで飛ぶかフォーラム	トンボはドコまで飛ぶかプロジェクト	神奈川県	神奈川県
		学校法人山陽学園 山陽女子中学校・高等学校 地歴部	瀬戸内海の海底ごみ問題の解決に向けての女子中高生の 挑戦	岡山県	岡山県
第6回 2019年	グランプリ	株式会社コクヨ工業滋賀	ヨシでびわ湖を守るリエデンプロジェクト	滋賀県	滋賀県
	優秀賞	株式会社アレフ	生物多様性に配慮した持続的なお米の仕入れ活動	北海道	北海道
		世界遺産白神山地ブナ林モニタリング調査会	世界遺産白神山地 ブナ林の100年モニタリング	青森県 秋田県	宮城県
		認定NPO法人 宍塚の自然と歴史の会	生物多様性の保全と環境教育	茨城県	茨城県
		愛知県岡崎市立生平小学校	つくろう、野鳥の楽園「バードピア生平」 —愛鳥や里山保全の活動を通じた自然との共生を図る児童の育成—	愛知県	愛知県